


 ずいそう

## 黒板を見ながら

佐藤 恒 壽



常日頃の安全活動ご苦勞様です。

日々の活動が出来形となってその成果が目に見える分野と違い、ある意味で変化のないことが成果であるようなこの活動は強い目的意識、緊張態勢を持続することが非常に困難なことと考えます。

このことは労働衛生の総元締めである厚生労働省でさえも年間の事業活動にメリハリ（準備期間、本週間、強調月間等）をつけて意識の高揚、維持を図っていることでも推察されます。こういった災害防止活動は監督官庁、発注者、請負者、協力会社他にいたるまで手を変え品を換え工夫を加えて実施されていますが、なかなか思うようにはいきません。出来るだけの努力をした後、神様にお願い（安全祈願）し、後は結果オーライで良しと納得、が実情なのかも知れません。

当社の壁の黒板には数年前の忌まわしい労働災害の記録が未だに残っています。その後発生していないため消えないのです。責任者は自分でした。

事故、災害はごく一般的な不注意、何気なさ、そんなはずは？といった加害者も被災者も予知不足、危険意識の欠如から発生すると自分は思っています。後で考えると、何故あの時、あんなことを、あの人が、と、なぜ何故の重奏ですが、全ては「落ちる、落ちてくる、倒れる、挟まれる、転ぶ」という「危ない、危険」ということを予知されていないからでしょう。すなわち勝手に自己判断して行動するパターンで起きます。そのためか現認者のいない単独作業に多く、相手を意識し注意が促される共同作業には少ないのです。

自分が働き始めた頃、学んだ安全は自己管理でした。自分の身は自分で守れば被災者は出ません。一昔前の日本人が持っていた良質な倫理観、「自分のことは自分です。他人に迷惑はかけない。」という心構えが基本です。当然ながら協力会社も同様で、痛みと弁当は自分持ちがしみ通っていました。不安全行動や段取り外の動きを見つけると、世話役や親方が即とんできて、怒鳴りつけ作業をやめさせ場外退去、即帰し今日の稼ぎを奪う。身をもって教育し仲間にも知らしめていました。機械も少なく人力による共同作業が多かったことも影響していたのでしょう。

思えばそういった親方連のかっこ良かったこと。

しかし現在の職場では許されないでしょう。社会全般に何となく漂う無責任な弱者保護ムード、個人の責任と権利のアンバランス、その自覚。何よりも働く環境が変化し共同作業が少なくなっています。与えられる作業環境は一人での単独作業が多くなってきています。これからも主たる作業は機械が行い、人間はその補助というパターンが増え、機械がたえず先行し担当者がせっせと後を追う姿が目には浮かびます。すべて一人で行わせられそうです。

長々と前置きで安全を例に取りましたが、世は効率を求めて最小数へと動いています。しかし仕事の質・量の変化と共に、我々に求められる成果の量、与えられる時間、そのために収集すべき情報の量・質等に対しての担当最小数は1なのでしょう？

文明の利器は日々進化し正直なところ全ての機能を使いこなすことは不可能です。その恩恵から我々の平均寿命も延びています。人生五十年と言われた時代に比較して約1.5倍です。充実しながら延びているのでしょうか？むしろ一年が1/50から1/75と希釈されているのではと思うのは自分だけでしょうか。

自分は、将来のことはともかく現在は仕事の担当最小数を2、すなわち全ての仕事は二人で行うべきなのではと思います。世の使用機器は倍々のスピードで進歩していますが、現代人は付いていけていません。機器の能力を基準にモノを考え、相手にも当然の如くそれを要求する、ものごとを知らない第三者が増えています。これには数で、カバーするほかはありません。

結果、残業時間の減少、一人で悩む自殺の減少、雇用の確保、原因不明な事故の撲滅、技術の伝承などのほか、何よりも技術立国？美しい国日本の最新機器が常時稼動し、国民も付いていけそうな社会が出来そうですが？

自分もそろそろサラリーマンという共同作業からリタイヤし、単独行動の道に入ります。出来れば二人の単位で行動したいものですが、相手が何と言うか。

その前にあの記録が書き変わって欲しいような、欲しくないような…。